

独立社外取締役から見たSBIグループ

常に先駆者として、持続的な成長を見据えた取組みに期待

佐藤 輝英

SBIグループは新たな成長ステージに入ったと感じています。好調に成長している時だからこそ、引き続き「自己否定」「自己変革」「自己進化」を意識的に続け、社会の変化に柔軟に対応し、常に先駆者であり続けることが必要です。また昨今、気候変動問題への注目が高まっていますが、こうした世界的な課題に対しても、テクノロジーの活用で強みを持つSBIグループが果たせる役割はますます大きくなっていくでしょう。これまでの20年から次の20年へ、持続的な成長を見据えた取組みがなされることを期待します。



ステークホルダーと連携し ESGの視点も踏まえた新たな価値創出を実現

竹中 平蔵

第4次産業革命が金融の分野にも進展するなかで、SBIグループは大きな競争優位性を持っています。社外取締役としては、社会・経済の双方から大局的に物事をとらえ、経営の大きな方向性を適切にチェックし、意見を述べるのが求められていると感じています。ESGの視点から言えば、グリーンボンドなどの金融商品を通じた環境への貢献、デジタル時代のコーポレート・ガバナンスの検討、そして地方創生という重要課題にも、地域金融機関と力を合わせ積極的に貢献していくことが、SBIグループとして求められていると思います。



将来の成長に向けて多様な人材の獲得と育成を図る

鈴木 康弘

リスク管理の重要性が増す中で、特にシステムやセキュリティリスクへの対応については、まだまだグループ全体での議論が必要だと考えています。また、将来の成長を見据えた時、グローバルな視点が必要なことはもちろんのこと、従来の金融という枠組みを超えた視点で考えることができる人材の獲得と育成が重要になります。SBIグループは企業の社会的責任について、経営理念にも組み込まれており以前から強く認識していますが、更なる成長を目指すためには、より多様な視点をもって議論していくことが不可欠であると思います。





執行への監督を強化し、透明性の高い企業運営を目指す

伊藤 博

SBIグループはこれまで堅調に事業規模を拡大してきましたが、それとともに企業統治等様々な課題が増大する可能性が高まっていると感じています。また、より透明性の高い企業運営も求められており、社外取締役として「執行」への建設的・客観的な牽制・監督機能を意識した業務を遂行していきます。更に企業としての発展を継続しながら、リスク管理を強化し、より社会へ貢献するためのESG施策に取り組むことで、ステークホルダーの皆さまのために更なる企業価値向上に努めていきます。

多様性をもってグローバルに展開するSBIグループに期待

竹内 香苗

グローバルに事業を展開するSBIグループにとって、ステークホルダーの皆さまの安心と理解に繋がるメッセージをいかに発信していくかが大切であると考えています。一方で、女性取締役などを含む多様性の推進が重要視される時代にもなりました。老若男女全ての人々に抵抗なく受け入れられる安心感のあるサービスを提供していくことが、SBIグループとしての持続的な成長を支える大きな柱になると考えています。他企業との連携で培ったノウハウは、今後更なる成長と社会貢献に活かせるものと考えています。



金融・経済分野での経験を活かし、SBIグループの更なる成長に貢献

福田 淳一

SBIグループは金融サービス事業をコアに幅広い事業を展開しており、新しいテクノロジーやアイデアを積極的に取り込み、それをエンジンに各分野が発展を続けている企業だと認識しています。また、北尾社長をはじめ社内役員のリーダーシップのもと、迅速かつ大胆な経営判断が行われ、これが企業としての大きな強みとなっているとの印象を持っています。金融分野のみならず広く経済政策にかかわってきた経験などを活かし、幅広い提言を行うなどにより、SBIグループ全体の更なる発展に貢献できればと考えています。

地方創生に取り組むSBIグループの企業価値向上に貢献

末松 広行

SBIグループは、金融分野で果敢な挑戦を続け、着実に成果を上げ成長を続けている企業であり、ぶれないリーダーたちと、新しいプロジェクトを提案・実行し続ける若手の双方がその発展を支えていると感じています。これからの日本においては、地方の地力を引き出し、地方の力で日本経済を引っ張っていくことが大切だと考えています。SBIグループがその原動力となって地方を元気にするビジネスモデルを構築していくなかで、私のこれまでの農林水産業・食品産業全般の知見を活かし貢献していきたいと考えています。

